

平成22年度第4回海老名市外部評価委員会 結果報告

日 時 平成22年10月 7日 (木) 10:00 ~ 11:40

場 所 3F 政策審議室

出席者 (外部評価委員会) 委員12名

(海老名市) 内野市長

事務局5名

【市長室長、市長室次長、市長室参事兼政策経営課長、主査、主事】
傍聴人なし

委員会概要

1 開 会

司会：柳田参事兼課長

2 海老名市外部評価委員会委員長あいさつ

- お忙しい中、本日もお集まりいただき大変ご苦労様です。
- 今年度の外部評価も、結果報告書を市長へお渡しするというところまでまいりました。
- 今年度は、新しいメンバーでの外部評価委員会ということで、改めて当委員会の位置づけ、外部評価の進め方などについて、委員全員が初心に帰って論議を重ねてきました
- 委員全員が、せっかく12人が集まって論議等を重ねていくなれば、委員会として多少なりとも役に立つものにしたいという気持ちで終始動いており、猛暑の最中のグループ別評価会議でも熱心な議論を行っていただきました。
- 今年度は、従来の外部評価の進め方からいうと、各事業担当部署の方々にも議論の場に来ていただいて、話を直接伺うという手法を重点的に取ったというところで、それが結果報告書等の中にも反映されていると思っています。
- 委員皆さんの熱心な論議と協力、それから今年度からメンバーが入れ替わり大変だったと思いますが、事務局の精力的な支えもあって、ここまでやって来られたと思います。お礼を込めて、冒頭のあいさつといたします。

3 報 告

(1) 平成 22 年度外部評価（平成 21 年度実施主要事業対象）の結果について

※ ここで、委員長及び 2 人の副委員長から「平成 22 年度外部評価結果報告書」（「事務事業別詳細評価」も添付）を内野市長へ手交

【報告書等の概要、これまでの経過などを報告】 海老名市外部評価委員会委員長

- 1 頁の「はじめに」及び 6 頁から 9 頁までの「外部評価全般に係る総括意見」を中心に「外部評価結果報告書」の概要を報告
- 「総括意見 1」は、市民に対する意識（市民目線）を常に持ちながら業務を遂行してほしい、それがおのずと行政内部の評価内容にも表れて、更なる評価の充実につながっていくであろうという観点でまとめている。
- 「総括意見 2」は、①事業の進め方として、昨日の事を今日に行う、今日の事を明日に行うというような側面も一方でありつつ、それだけでなく、本当に効果があるのかないのかという観点から、時には事業を廃止してよいのではないかと。②市民の方からみると、一つの事業に複数の事業が含まれているため、その事業を市民が区分けして評価するのに手間がかかる、あるいはそれだけでは事業の内容がわかりにくいという弊害があり。その点について、事業の進め方との兼合いが一方でありつつも、わかりやすい市の業務推進に向けた工夫が必要ではないか、という二つの観点でまとめている。
- 「総括意見 3」は、当該事業が市民のために重要だから実施するという意識だけでなく、人件費も含めたトータルでのコスト削減の余地がないのかを検証する意識について、もう少し市職員の隅々にまで徹底してほしいという観点でまとめている。
- 「総括意見 4」は、市職員には、①事業が効率的に実施されたのか、②実施した事業が市民にどのような効果をもたらしたのか、成果志向・市民志向など経営的な観点に立って、事業の分析・検証を継続的に行うことに力点を置いて考えてもらいたいという観点でまとめている。
- 「総括意見 5」は、従来の行政評価システムはパッケージシステムで運用をしているが、事業が表現しにくい等フォーマットそのものにも課題があるという現状を踏まえ、現場の職員にとっても、市民にとっても実施して有益だったと思える行政評価でなければならないという理念に基づいて、現行のフォーマットや評価の方法について、その理念に適合しているかも含めて、検証していかなければならないという観点でまとめている。

- 従来の経過で言えば、自分達の行った外部評価の結果が、どのように反映されているのかが全く分からない、つまりアクション（見直し）の部分が必ずしも明確になっていないという側面があったと思う。そこで、今回は、外部評価結果に対する一定の回答（次年度への反映状況）について、次年度の予算等が固まったあたりで事務局に整理を行っていただき、その内容がまとまった時点で、外部評価委員会へも報告をしてほしいという期待を込めて、総括意見を締めくくっている。
- アクションの重要性を市長にもご留意いただき、外部評価結果に対する次年度への反映状況を整理する際には、市長からも各現場にその点のお声かけをいただき、職員の意識徹底を図ってほしい。
- 今回の外部評価は、現状継続や見直し拡大といった評価項目ではなく、各事業の実施結果に対し今後どうすべきかを述べたコメントが外部評価委員会としての真の評価であるとの共通認識から、評価の過程で各事業へ出した具体的意見をまとめた資料として、「事務事業別詳細評価」を別に作成したので。「外部評価結果報告書」と併せて、参考にさせていただきたい。

【お礼のことば】 内野市長あいさつ

- 今年度は、海老名市外部評価委員会の皆さんに「平成 21 年度の主要事業」を対象に外部評価を行っていただきました。
- 総括的な 5 つの意見は、しっかりと全職員に浸透できるような体制で業務に生かしていきたいと考えています。
- 私どもは、4 月 1 日から組織を変更しましたので、委員の皆さんにも大変ご迷惑もおかけしたと思いますが、この間の皆さんの時間が無駄にならないように、一生懸命これを現実ものとしていくということをお約束しながら、予算編成会議がいま始まっていますので、トップとして、今後の政策会議や最高経営会議などにおいて、部長以下の幹部職員に指示をしていきたいと考えています。
- 予算編成において、最終的に 12 月から 1 月にかけて市長査定が入っていますので、そういったところで、市長としてもチェックをしていきます。
- 海老名市外部評価委員会が発足して 5 年が経ちますが、私どもが最初「外部評価」の制度を導入した際、外部評価委員会の皆さんも試行錯誤がいろいろあったと思いますが、外部からの評価が入ってきて、それをどうすればよいのかということで、行政内部も大変な状態にありました
- しかし、5 年も経ちますと、市職員もやっと「市民の目線」というものを徐々に理解してきたと思っています。ただ、職員も 800 人近くいますので、職員すべてが理解しているかというところではありません。
- よく私も自分の中で、「公務とは何か」ということを考えます。私どもの公務とは、市民のために公明・公正に行う「地方公務員の業務」だと思っています。

- 地方公務員が行う業務なのか、民間に任せた方がよいのか、そういう面の経営的感覚、あるいはコスト面や費用対効果を考えていく意識を持つべきだということを、常に職員には言っています。
- 今日の新聞に「相模原市の事業仕分け」の記事がありました。相模原市は、当初独自の方法で事業仕分けを行っていましたが、今回は、構想日本に依頼をして事業仕分けを実施したそうです。
- しかし、相模原市の事業仕分けの内容をみると、すでに海老名市もそれと同様のことを行っているということを感じました。
- 例えば、私どもの市は、指定管理者制度についても、県下あるいは全国に比べて、できるだけ積極的に導入を図りました。その上で、指定管理者制度の導入から5年の経過に伴い、指定管理者制度に馴染んだか馴染まないかの総括をしっかりとやっていこうと今その部分を踏まえて、来年度に向けて動いています。
- 文化会館やスポーツ施設も指定管理を行っていますが、前の条例や規則等を踏まえた中での指定管理なので、どうしても業者の方はそれに縛られてしまいます。
- ただ、民間の発想も必要であることから、私どもは、文化会館やスポーツ施設は365日24時間体制という考え方に立って、今回は、休みや時間の関係を指定管理者に任せていく方向で動いています。
- 市役所の仕事は年末になると12月29日から1月3日まで休みですが、その間も施設を利用したいという市民の方はいます。したがって、施設が開けられることによってそれを利用される市民もいます。そういった面で、8時30分から17時15分の営業時間も踏まえつつ、市民の目線で物事を運営していくという考え方で手直しを行っています。
- このように、様々な点で、この外部評価委員会の皆さんのご意見を聞きながら、私どもは事業の見直しなどの取組みを行っており、まさにこれこそが事業仕分けによる取組みそのものであると、私は考えています。
- 今回、各事業に対しいろいろなコメントをいただいておりますが、私どもも、現状継続や見直し拡大といった評価項目ではなく、皆さんがグループ別評価会議で出された、この各事業の実施結果に対し今後どうすべきかを述べたコメントを外部評価委員会としての真の評価として大切にしながら、しっかり説明責任を果たす回答ができるような体制で業務に臨んでいきたい、また、予算がある程度固まった段階で、必要なものについて外部評価委員会に情報公開しながら、皆さんのご意見も聞いていきたいと考えています。
- 海老名市は、来年、市制施行40周年を迎えますが、40年間のまちづくり・政策がどうだったのかを判断する重要な年だと思っています。より一層、海老名のまちづくりを良くするため、この40周年を契機にやめる事業があってもいいのではないかと、あるいは、新しいスタートを切る事業があってもいいのではないかと、より充実させる事業があってもいいのではないかと、様々な観点を大事にしたいと思っています。

- しかし、事業をやめるというのは、なかなか勇気のいる仕事です。しかしながら、今年度は、農業と商工業を分けるという考えで、歴史ある産業まつりを行いませんでした。
- このようなことも、行政にやろうという強い意思があったからこそできたのだと思いますので、来年度についても、しっかりした方針を持ちながら取り組んでいきたいと考えています
- ただ、海老名市も本当に財政的には大変厳しい段階に入っており、平成 22 年度がなんとか乗り切れるという状況にあります。平成 23 年度から 24 年度までの 2 年で海老名市の普通建設事業費がマックスを迎えます。ここを乗り切らないと、10 年後 20 年後の海老名のまちづくりに禍根を残すことになるであろうと思っています。
- ある方が推計した数値によると、2035 年に海老名の高齢者（65 歳以上）の人口は今の 3 倍になると言われています。現在、海老名市の人口は約 12 万 8 千人で、そのうち約 2 万 4 千人弱（全体の 18.26%）の方が 65 歳以上なので、あと 20 年後には人口も減っている中で 3 倍になると、とても恐ろしいこととなります。そのため、このような時代を支えられるような「まち」を今ここでつくらなければならないと考えています。
- したがって、事業についても「選択と集中」ということを常に職員に言っており、やるべき仕事はしっかりと集中してやっていく、事業についてはコスト面や費用対効果等を考えて選択をする時代になっていると思っています。
- 様々な点でまちづくりが真ただ中の海老名ですが、明るい話題もありまして、ポニーが 10 月 3 日に海老名に来ました。私も 6 日にそのポニーを見てきました。
- なぜポニーなのという方もいますが、以前に障がい者団体の皆さんとお話をしたときに、ポニーを大変喜んでいました。自閉症の子供達にとって、動物というのはすごく良い効果があるそうです。また、高齢者の方にとっても良いという話もありますので、できるだけポニーが海老名の市民の皆さんに心の癒しを与えられる体制も整えていきたいと考えています。
- これからも、外部評価委員会の皆さんから様々なご意見をいただいて、より良い海老名をつくっていききたいと思います。本当にありがとうございました。

4 懇 談（進行：海老名市外部評価委員会委員長）

【委員意見①】

- 海老名市全体として、①外部評価結果を使いこなす仕組み、システム、組織体制がない、②外部評価の結果が書類のまま保管されているという現状が多い、③外部評価を行った対象事業の担当部署の方と外部評価委員会との相互のやり取りがないと感じたが、これでは、外部評価結果の印象が薄い。

したがって、外部評価を市の事業業務の一環として役立てるという方針のもとに、市内部のマネジメントにつなげるとか、組織のルールづくりの中で位置づけて発展させていく等をしていかないと、全庁的に浸透していかないとと思うので、その検討をお願いしたい。

- 市の財政は厳しい状況にあり、財政的にとても硬直化している。

これからの2年間は、投資的事業をいかに効率的に行うかが鍵になると思う。

その中で、外部評価を行った事業計画について、いかに効率的に、かつ性能等を保持しながら、最小限のコストで実現できるかに尽きる。

したがって、今回外部評価を実際に行ってみて、計画段階からのやり方をもっと工夫することで、2割から3割のコスト削減もできるのではないかと感じた。

すなわち、一番大切なのは、計画段階の目標設定ではないかと思う。今回評価をさせてもらった事業で、明確な目標設定がないものが多く、どれが目標かがわかりにくい事業が多かった。

例えば、「校舎のエアコン設置」（事業コード：322101）について、目標が「学校5校にエアコンを設置する」ことで、結果が「学校5校にエアコンを設置した」との内容だけが記された事業であるが、これでは、委託された業者が、市に報告するような内容である。目標を検討する上で重要なことは、先の例で言えば、どういふエアコンを入れて一番効果的なのか、エアコンを設置したことで増加する電気代をどうやって下げなければならないのか、エアコン一台当たりのベンチマーク（他社の優れた経営方法やマーケティング戦略などを探し出し、自社のやり方や手法との違いを分析し、それに基づいて自社の経営や営業手法などを改善する経営管理手法のこと。）はどうなっているのか。他市の実績と比較して、本市はどうであったか、こういうことを考えることそのものが「目標設定そのもの」であると思う。

外部評価を行う際、この明確な目標がないため、評価をしようと思っても、一体何と比較（何を基準に）すれば良いのか等がわからず、はじめは大変困惑した。

したがって、各担当部署が事業計画を行う際、自分は何をすべきなのか、自分は何をすれば評価されるのかという目標がないことが、今後の課題の核心だと思う。

各人が事業を実施するに当たって、管理者を含めて、目標設定を行うことを市のマネジメントシステムの中でご検討いただきたい。そうすることで、マネジメントレベルも当然上がるだろうし、各自が考えることで技術的躍進にもつながると思う。

- 外部評価について、実績評価だけでなく、目標設定の段階においても評価を行い、その評価に対する対応結果がどうであったかを明確にするという流れも一連のシステムにすることで、外部評価がもっと有効なものになると思う。

- 外部評価について、実績評価だけでなく、目標設定の段階においても評価を行い、その評価に対する対応結果がどうであったかを明確にするという流れも一連のシステムにすることで、外部評価がもっと有効なものになると思う。
- これまでは、評価シートによる紙だけでの評価作業であったが、今回は、評価の対象事業の各所管課にも作業の場に来ていただき、関連資料をご提供いただいたし、評価シートだけではわからなかったことが、特に、予算の面で（当初予算が補正でどうなったのか等について）非常によくわかったので、これからも続けていけたらと考えている。

ヒアリングで、今回は、コスト意識、費用対効果についても担当部署から説明をいただいたが、民間に比べると、まだその意識の点で差があると言えるので、今後とも市職員に更なる費用対効果とコストの意識徹底を図ってほしい。
- P D C Aサイクルの「CからAまで」の過程が見られれば、計画段階においても意見できるものと思っている。ぜひ、すぐ実現できなくても良いので、次年度予算の固まった頃に、評価結果の反映状況について、外部評価委員会へフィードバックしてほしい。そうすることで、次年度の事業計画等を外部評価委員会と担当部署の双方の視点で確認もできることから、ぜひ実現していただきたいと思っている。
- 外部評価を実施している他の自治体と意見交換をする機会を持ちたい。その中で、評価のやり方やP D C Aサイクル等の内容について、外部評価委員会の委員としてもう少し勉強できたらと考えている。

事務局も非常にお忙しいことと思うが、その橋渡しをお願いしたいと思う。

⇒ 【市長意見①】（対「委員意見①」）

- 目標設定は重要だと認識しているし、その観点で本市においても全職員を対象に人事考課（相対的評価）を行っており、職員の意識改革にも寄与している。
- 先程も、「校舎のエアコン設置」（事業コード：322101）について話が出ていたが、実は、市民からの評価として今年度の中でも最高に高かったのだが、その点のP Rが上手くなく、あまり市民に知られていない。全国の小中学校のエアコンの設置率は2割を切っているが、海老名市は10割で行った。ただ、電気の使用量がやはり問題で、どうやって効率化を図るかが課題である。二酸化炭素の削減については、庁舎も含めて公共施設だけでの取り組みでは限度があるので、一般家庭にもご理解とご協力をいただかなければならないのが実情である。そこで、「地球にやさしい家庭づくり」（事業コード：411105）等の事業を通じて積極的にP Rもしている。

- 暑い時期にエアコンがなければ、教室は35度以上にもなることから、子ども達にとってエアコンの効果はあると思うが、同時に環境問題も念頭に入れている。
その点も踏まえ、環境に配慮した機器を入れているが、そういったことが皆さんに公表されていない実態があるので、そういった観点での事業展開を考えている。
一番の課題なのは、エアコンを設置して、子ども達にとってどうだったかという効果分析がないことである。私はそれを教育委員会に求めている。
- 学校のプールの授業を屋外から屋内にしたことで、プール授業の評価が上がっている。ただ、学校でのプール授業として屋内にしたことは評価されているが、その評価されている事実が広く公表されていないのが課題である。教育委員会として、学校運営の中で、その評価の上昇した部分をもっとPRしてほしいと思っている。
このように、一定の評価が出ているのに、その内容が伝わっていないというのは、大きな課題だと思っているので、その点の改善も今後やっていきたいと考えている。
- コストの面で民間と違う点の一つに「入札制度」がある。民間の場合だと、付き合いがあった業者に工事費を安く依頼し、儲けが出た場合にその分を上乗せする等の調整ができるが、市の場合はそうはいかない。市の「入札」の場合、一定の工事の基準が必要であり、国や県の単価を持ってくるので、公共事業が民間のコストに比べて高くなる。これは問題であるが、国や県の考え方を変えてもらわないと市としてもどうしようもないのが実情である。
- 体育館について、座間・綾瀬の総合体育館にはエアコンが入ったが、海老名市の総合体育館にエアコンはまだ入っていない。今後海老名も導入したいと考えている。
しかし、20年前に体育館を建てるとき、体育館は避難所にもなり得るので、その場合の対応としてエアコンも必要ではないかという観点で、エアコンの設置について議会で提案されたことがある。ところが、スポーツは汗をかくものであり、教育のスポーツ施設にエアコンは贅沢との見解から、エアコンは必要ないという考え方が当時の教育委員会から示された。いま現実には、体育館をスポーツだけの使用としていたら効率は悪い。いろんなイベントにも使用できる。最終的には避難所にもなるので、それ相応の対策が必要であると思っている。ただ、そういったとき、コストの面で国県の基準や入札制度等を踏まえなければならぬため、そこが一つの壁になってしまうが、そうした発想転換も今後はもっと必要になると私も認識している。

- 昔から海老名市は海老名（北部）と有馬（南部）に分かれていたが、来年を契機にしてそうした発想はなくしていこうと考えている。なぜかという、南伸道路は完成するし、インターチェンジも完成し、一番近くでインターを使えるのは南部の方々であり、南部の利便性が高くなっている。そういったことから、北部の海老名、南部の有馬という区分がなくなり、「オール海老名」としてのまちづくりを今後展開していくこととなる。
- こういったまちづくりを踏まえ、学校に通う子どもたちの安全を確保するための手段として、スクールバスの導入が最善であるとする時代が来るのではないかな等の将来を見越して、これからはコストを考えていく必要があると思っている。ただ、これまで積み重ねてきた歴史もあるので、新しい発想に転換していくにはなかなか困難な面もあると思うが、しっかり取り組んでいきたいと考えている。
- 今回、外部評価委員会の皆さんから様々なご意見を踏まえて評価をいただいた。各担当部署は外部評価の結果などを踏まえ、次年度の事業計画について手直しを行う段階に入っていくので、その評価への各担当部署の考え方や対応等について、次年度予算等の内容がある程度固まった時期、外部評価委員会へ報告をさせていただきたいと思っている。その際、各担当部署の考え方や対応等について、外部評価委員会の皆さんからもご意見をいただければ、次年度の予算等がより効果的になるものと考えている。
- 外部評価を実施する他の自治体と意見交換する機会については、事務局の調査・研究や外部評価委員会の皆さんの要望等に基づき、必要があれば、視察等の機会を設定できるよう措置したいと考えている。

【委員意見②】

- 市で行っている事業の中で、非常に良い事業、成果の上がった事業があるのに、それがあまり市民に広報されていないのもったいないと思う。それを行うことで職員の活性化等にもつながると思うので、ぜひ検討してほしい。

⇒【市長意見②】（対「委員意見②」）

- 来年の40周年を契機に、ホームページや広報紙を変えたいと考えている。特に、広報紙については、見るときや保存のときに便利であるよう、広報紙をタブロイド（新聞紙サイズ）からA4判にして、①記事性のある頁、②お知らせの頁、③まちづくりの重要な施策を載せた頁、④市民の意見に対し市長等職員の見解を述べる頁、⑤高齢者の方々が見るべき頁、⑥子ども達が見るべき頁、⑦最後の頁にカレンダーをつける構成で考えている。また、その広報紙の作成費用をできるだけ有料広告等の収入で賄っていこうと考えている。さらに、海老名の市政運営や企業等について、成果を上げていて、社会的に貢献もしている部分を海老名市としてもっと積極的にPRできる広報紙へ来年度から変えていきたい。
- これからの取組みとして、子ども達にとって必要な情報、高齢者にとって必要な情報等を的確につかんで、広報紙等に整理して情報等を生かしていくことを通じて、コスト削減にもつなげていきたいと考えている。
- ただ、家で待っていれば情報が来るというものではなく、パソコンを開いて必要な情報を収集する、もしパソコンが開けなければ、市役所や公共施設まで足を運び、そこで必要な情報を収集する、そういった市民の方々の能動的な協力もコスト削減には必要である。

【委員意見③】

- 評価シートのフォーマットを大幅に改善する場合、外部評価委員会の意見も取り入れていただいて、成果指標（アウトカム）に視点を置いたフォーマットの改善をぜひお願いしたい。

⇒【市長意見③】（対「委員意見③」）

- 政策（実施計画）と予算がリンクする仕組みにつながるよう整備を行いながら、フォーマットの改善については、外部評価委員会の皆さんとも協議しながら進めていきたいと考えている。

【委員意見④】

- 新しく改善される行政評価システムの中に、人事評価の項目（活躍度、貢献度、アイデア等）を盛り込むのも一つではないか。その仕組みが職員に浸透すれば、評価結果の見直しに対する職員一人ひとりの取組み方も変わってくるのではないか。

⇒ 【市長意見④】（対「委員意見④」）

- 行政評価システムに人事評価の項目を盛り込むのは難しいと思うが、政策の評価として、新しい発想の政策に対しその政策を担当した職員が一生懸命やっていたと外部評価委員会の皆さんが感じるのであれば、同時に私や担当職員の上司も感じており、それは自然と担当職員の仕事の結果にもつながっていくと考えている。

【委員意見⑤】

- 市長のごあいさつの中で「民間（NPO・NGO等）の発想も必要であり、事業における民間と行政の連携も増えてくる」と述べていたが、そうした事業に対して、職員による評価だけではなく、委託を受ける等によりいろんな意味で関わった職員以外の人達の意見やこの事業に対する評価的な考えを、この行政評価の一つの項目に盛り込んでいくことで、さらに質の高い事務事業評価になっていくと思う。
- 市で助成している、あるいは補助金を出している多くの団体に対して、PDCAサイクルの考え方を普及させてはどうか。団体への助成金や補助金もすべて税金である。それなのに、予算書・事業計画書、決算書・事業報告書について、ほぼどの団体も同じ様式で毎年ほとんど変わらない内容となっており、金額だけが多少違うという資料になっている。その原因の一つとして、団体の構成員が内容を固定してしまうというのが挙げられると思う。
したがって、内野市長は非常に影響力が大きいので、そういう団体に行かれた際に、このPDCAサイクルの考え方を取り入れるようお願いいただけると、予算書・事業計画書、決算書・事業報告書等も非常にわかりやすいものになると思う。
- 外部評価委員会として評価する立場で感じたことだが、評価の対象事業のうち、大きな建物等の建替えに関する事業もあったが、事務事業評価シートだけではわからず、実際に視察し現状を把握する必要もあると感じた。もちろん、すべての事業について行っていたら大変なので、大きな規模の事業（ハード事業等）に限定して現場の視察を行うなど、そういう機会が一度でもあると有益かなと思う。

⇒【市長意見⑤】（対「委員意見⑤」）

- 助成金と補助金の関係について、P D C Aサイクルの考え方を対象団体にも取り入れるのは私も賛成である。しかし、各団体にもいろいろな事情もあることから、ご批判等があるとも思うが、それをやらざるを得ない時代に来ていると考えている。
したがって、助成金と補助金の関係については、来年度以降に別の機会を設け、委員の皆さんにご説明をさせていただいて、その説明を受けた段階で、金額を削減できるかできないかは別にして、委員の皆さんからご意見をいただけたらと思う。
ただ、そういったご意見等を踏まえても、市の方で金額を削減できない助成金・補助金はあるのも実情である。しかし、財政状況も大変厳しい中、そういったことまで切り込まなければいけない現状に来ているのも確かだと認識しているが、私としては「一律、何パーセントの金額削減」はやりたくないと考えている。
必要な団体には、必要な分だけ助成・補助してあげたいし、 unnecessaryな団体には、その分だけ削減するというように、メリハリを付けた削減を図りたいと考えている。
- 民間と行政による協働のまちづくりは当然だと思う。しかし、海老名にはN P O法人等の団体が多くなく、お互いに協働でやりましょうというパートナー（N P O法人等の団体）が少ないというのが現状で、そこが悩みの種である。

【委員意見⑥】

- 知識を持つ高齢者の方がこれから先増えてくると思うが、何かをしたいとは言うものの、どこへ行って何を聞けばいいのかわからないと言う人が、たくさんいる。
ホームページ等で、取り扱っているボランティアが一覧等でわかりやすく情報が提供されると、地域的な活動などにそういう高齢者の方も参加しやすくなると思う。

⇒【市長意見⑥】（対「委員意見⑥」）

- 有償ボランティアであるが、ボランティアを取り扱う場所として「シルバー人材センター」があり、県下でも大きいボランティアを扱う組織である。市も広報紙等のポスティング、2メートル未満の植木の管理など、いろんなことを委託しており、今後はポニーもお願いしようと考えている。このように、今後も有償ボランティア、無償ボランティアの内容をオープンにして、ボランティアに関する情報を広く提示していきたいと考えている。

【委員意見⑦】

- 今回のように、現場の職員からもこのような幅広い視野を含めた説明が外部評価委員会に打ち返されるようになっていけば、今後ますます外部評価制度も充実してくるものと思っている。

⇒ 【市長意見⑦】（対「委員意見⑦」）

- 今回の外部評価委員会の皆さんがされた担当部署へのヒアリングのように、行政の実施する事業について、市民目線に立って職員と議論を交わすことは、これからの海老名の将来を担う職員にとって、非常に良い刺激になっている。
- 20年後の遠い将来、海老名の名前が残っているか残っていないかはわからないが、海老名として「県央の中心的な役割を果たせる」まちづくりを、職員ともに今後も積極的に取り組んでいこうと思っているので、外部評価委員会の皆さんのご協力をお願いしたい。

【 市長途中退席 】

□ 柳田参事兼課長

- 評価シートのフォーマットを改善するに当たっては、当初から、外部評価委員会のご意見等をいただきながら進めていきたいと考えていたので、ここで、ようやく評価結果がまとまり一区切りがついたところなので、先進市の例等も参考に、外部評価委員会の皆さんからご意見をいただきたいと思っている。
- 2月ぐらいに外部評価委員会を開催し、今回の外部評価結果の各所管部署の反映状況を報告するとともに、評価シートについての改善案も皆さんと固めていくスケジュールで、市長とも下打ち合わせはしていた。
- ただ、本日、市長の方から、予算がある程度固まった1月頃の段階で、外部評価結果の反映状況について外部評価委員会に報告し、委員の皆さんからご意見も聞くとのお考えが出されましたので、今後、開催の日程等も含めて調整していきたい。

□ 清水市長室長

- 先程の市長のお言葉によれば、次年度当初予算の市長査定が最終確定する前に、外部評価委員会を開催するとのことで、私どももその想定はしていなかったけども、今後、委員の皆さんと調整を図っていきたいと思っている。
- 庁内での予算編成会議を昨日（10月6日）に行い、実質的には予算編成に入っているわけだが、各部等の予算要求を受け、財政課等が内部的に各課等へヒアリングを行い、その後に市長が直接査定に入るのは、12月議会が終わった頃から実質的な市長査定に入る。年明け早々から市長査定に入る自治体が多く、海老名市のように年末から市長査定に入る自治体はそう多くない。
- 各事業の細部にまで知っておきたいというのが内野市長のスタイルであり、そういった意味で査定等にもある程度の時間をかけたいということから、年末から市長査定に入るスケジュールとなっている。
- 予算編成会議での予定によれば、1月17日（月）に当初予算の市長からの内示を予定しているので、12月下旬から1月中旬まで市長査定が続くことになる。
- 内部手続きの話になるが、内示を受けて予算は決まりではなく、国も同じだが、復活要求というのがあって、復活の要求に対する市長査定という内部手続きがある。期間は非常に短く、17日内示の翌日18日が復活要求の締め切りで、20日に復活市長査定（予備日として21日も設定）という非常に限られた日程となっている。
- 日程的にきついということをお願いしたいのではなく、こうした流れを経て決定される予算編成そのものに市議会議員もコミットすることはない状況の中で、評価という役割を担う外部評価委員会の立場で、予算編成過程の途中段階に参画されるということがどうなのかという疑問を感じた。そのあたりについて、委員長を中心に委員会としてのお考えをこの場で取りまとめていただきたいと思う。

⇒ 【委員意見等】（対「清水市長室長の意見」）

- 外部評価委員会としては、権限を用いて予算編成に関わるということではなく、今回自分達を実施した外部評価の結果が、次年度予算等も含めた事業の計画にどのように反映されたのか知りたいだけである。したがって、各部課等から次年度事業計画の方針が出されて、市長査定の最終確定がされる前の段階で、どんな事業計画の方針になったのかを見てみるというレベルで十分だと考えている。あくまでも、評価委員としての立場での確認で、評価結果が反映していないから、そのとおりに修正すべきだとかを言うつもりは全くないということをご理解いただきたい。

⇒ 清水市長室長

- 外部評価の結果がどのようにアクションとして、次年度事業の計画や予算に反映されたのかの結果をお示しするというのであれば、時間的なタイミングとしても、市長査定の最終確定前あたりが妥当と考えられる。

□ 二見市長室次長

- 10月政策会議・最高経営会議という全庁的な会議に、外部評価について、「結果報告書」とともに「事務事業別詳細評価」と併せて報告を行い、外部評価の結果と次年度への反映状況について確認する旨を、全庁的に周知したいと考えている。

なお、外部評価結果に対する平成23年度予算等への各部等の反映状況については、評価結果の資料として「事務事業別詳細評価」の内容をベースに調査確認を行う。

□ 柳田参事兼課長（まとめ）

- 今回、外部評価委員会の皆さんから出された評価結果というのは、平成23年度の予算編成等にも生かされることになると思うので、各部課等で平成23年度予算等の考え方が整理された時期に、事務局から「外部評価結果の反映状況」について調査をかけさせてもらい、その結果を取りまとめて、外部評価の結果が次年度の予算や計画等にどう反映されたのかを外部評価委員会にご報告させていただきたいと思う。

また、できればその会議で、評価シートの第一改善案的なものも提示し、委員の皆さんからのご意見を頂戴できればとも考えている。

なお、開催日については、委員長・副委員長と調整させていただき、適切な時期に設定をさせていただきたいと思うので、よろしくお願ひいたします。